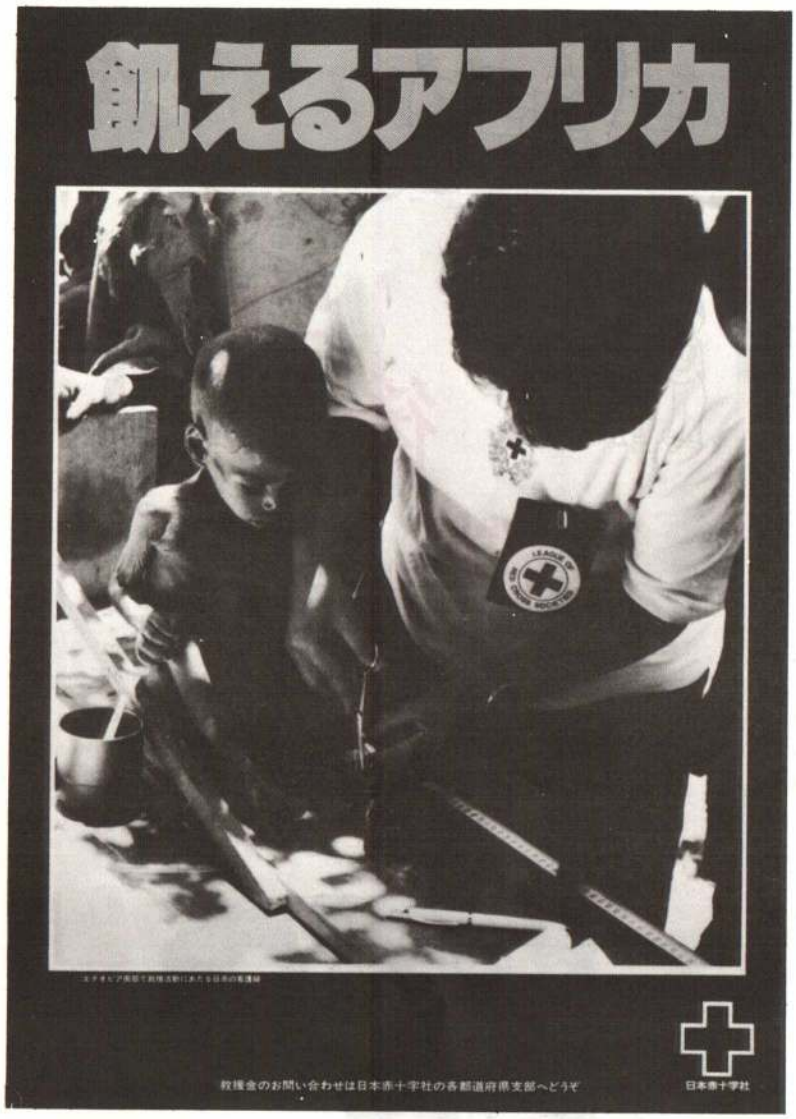
アフリカ難民を飢えと寒さから救おう

干ばつと飢えと寒さに苦しむアフリカの惨状が、連日のように新聞、テレビ等で報じられています。FAO(国連食糧農業機関)では先頃「アフリカは八十五年には更に食糧不足が深刻化する」と発表しました。現在アフリカの飢餓人口は一億五千万人、二十七ヵ国にも及ぶと言われ、とりわけエチオピア、モザンビーク等の国々があげられています。エチオピアでは全人口の五分の一、約六百万人が危機状況に陥り、そのうち百万人は子供たちと言われます。こうした人々を救おうと、日本でも日赤や民間団体などに多くの人々の善意が寄せられています。せめて食事と暖かい毛布が一人一人に与えられるよう、皆さんのご協力をお願いします。



「…北部ウォロ州に新設されたバチ救援センターだけでも一日に五十人以上が死んでいる……十七日、六歳の男の子が飢えて死んでいくのを見た。点滴を受けている途中で、首がガクリと垂れ、そのまま息をしなくなった。見守っていた父親が、体を揺さぶりながら名前を呼び、それから、黙って子どもの体をふき始めた。ほこりだらけの父親のほおに涙が伝わっていた。……」(59年11月19日付　朝日新聞より)

これは、すでに五十万人以上が餓死したと言われるエチオピアでのことです。飢えで死ぬ大半が子供であり、そしてその九割が栄養失調だといいます。生まれてから一度も満足な食を摂ることもできずに子供たちは倒れていきます。

十一月上旬以来、アフリカ各地には世界中の国からこれまでにも増して食糧、医薬品などが届けられています。しかし、それでもまだ多くの人々がやせた国土で飢えと寒さにうち震えています。

義援金は日赤(福祉事務所内)へ

日本各地でもアフリカ難民に対する救援活動は盛んにつづけられています。俳優森繁久弥さんを会長とする「アフリカへ毛布をおくる会」は今月末までに百万枚の毛布を集めようと頑張っています。一握りのお米を送る運動は、一主婦の村上章子さん(品川区南品川5～16～14～101)を中心に全国に広がりました。県内でも能代一中のノートを送る運動など多くの救援活動が展開されています。

市でも日赤が窓口となり義援金を受付けています。どうぞ皆さんの暖かい善意の手をお願いします。

〈日赤大館地区〉
市福祉事務所社会係
☎49～3111(内208)

※なお「アフリカへ毛布をおくる会」については東京都新宿区西新宿2～3～1同会事務局(☎03～348～0088)まで問合せください。

歳時記

今年は丑年(うしどし)、あなたは牛というとどんな連想をしますか。のんびり、のっそり、それとも牛乳、厚いビフテキ…。

歴史をさかのぼってみると、牛は紀元前三〇〇〇年ごろメソポタミアやエジプトで、牛に引かせたすきによる耕作が行われていたそうです。この技術は、それまでのくわによる耕作に比べ、はるかに広い田畑を深く掘り返すことができ、農業の生産力に革命的な進歩をもたらしたということです。

その後、十七～十八世紀になって蒸気機関が発明・実用化されるまで、牛をしのぐ技術上の進歩は見られないといいますから、いかに長い間、牛が新技術として〝君臨〟してきたかが分かります。

さて、今年の丑年、モウ烈に生きるもよし、のんびりと人生を反芻(はんすう)しながら生きるもよし、ともかく角をつき合わさずに仲よくいきたいものです。

〈今月の主な行事〉

1日・鳳凰山元旦登山
・元旦マラソン(鳳鳴高前スタート)
6日・消防出初式
7日・新春書初め大会(青少年ホーム)
18日・新春箏演奏会(市民文化会館)

交通事故相談・1月8日、14日、22日(9～16時)　**法律相談**・1月18日(9～16時)　市役所会議室